Weekly Eyes ～エネルギー Energy ～

エイチ・エス・フューチャーズ株式会社

2008/11/28

□ アナリスト週間相場予想

	原油 OIL	ガソリン Oil	灯油 Oil
江崎	↗	↗	↗
西	↗	↘	↗

Pick up News

〔注目スケジュール〕

12/1　米商品先物取引委員会（CFTC）建玉報告
3　原油・石油製品供給統計週報（石油連盟）
米エネルギー情報局（EIA）週間在庫統計
5　CFTC建玉報告

□ テクニカル分析（担当：西 勝之）

先週に引き続きエナジーセクター全体は売り方針。チャートは東京ガソリン先限日足にボリンジャーバンドを被せたものだが日足チャート上はお世辞にも買いサインと見る事はできない。まず単純パターン分析上は10月の安値44890円(10/27)がはっきりしたレジスタンスとなっており、少なくとも上昇トレンドを示現する為にはこのレジスタンスを突破する必要がある。そしてボリンジャーバンドに目を移してみると現在標準偏差－1Σを回復したばかり。中心線(20日移動平均線)がボリンジャーでのレジスタンスとなるが、この指標(中心線)は9月以降終値ベースで回復したのがわずか1度(10/1)だけ、更にこの20日移動平均線は未だ下降トレンドを示しており、すくなくともこれが反転→上昇しないかぎり底打ち感はでてこないだろう。灯油・原油共に最近の日足が形成するパターンはガソリンと同じ。スプレッド戦略をとる場合を除き、アウトライト(片バリ)では買い玉は持ちたくない。(11/28前引け現在)

□ ファンダメンタル分析（担当：江崎 和弘）

原油および石油製品相場に関しては、29日に予定されているOPEC(石油輸出国機構)緊急会合の内容次第となりそうだ。タカ派的な国からは追加減産が強く示唆されているが、今回も例に漏れず、OPEC全体としては意見がまとまっていない様子。実際に追加減産が決定されるかどうかは、現段階でははっきりしない。仮に減産が見送られれば、NY原油は40ドル割れとの弱気な声も聞かれるが、来月17日にはもともと定例総会が予定されているだけに、何かしらの相場に対する布石は打たれるものと考えたい。

ただ問題は、減産だけでは相場の基調が変わるとは思えない点にある。下落相場の背景には主に3つの理由がある。(1)世界景気後退による需要減少、(2)金融、信用不安拡大を背景としたドル需要の増加(＝ドル高)、(3)投機マネーの撤退である。この中でも根が深いのが(1)の問題で、ここが改善しない限りは減産による効果は長続きしない可能性が高い。

米国のみならず、欧州、中国、そして日本においても景気対策が策定されているが、まだ実行段階には移っていない。世界で協調して行われている利下げや、こうした実体経済への支援策が効果を発揮するには時間が必要である。金融不安の震源地となっている米国に関する経済指標が好転し、需要予測が上向いた時にこそ、相場は明確に反転しているものと考えられる。今後の展開を先取りして動くのが先物相場だが、まだトレンドが変わる要素は見えてこない。OPEC追加減産は一つのきっかけとはなり得るが、それだけでは材料不足というのが実感である。

◆添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。

許可番号RE0081(許可取得日2008年11月28日)